

品川宿 会報 みこしだこ 2021年 新春版

2021年2月発行 第56号

新年のご挨拶

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスで明け暮れ、自粛、緊急事態宣言、三密回避、ステイホーム、Gotoキャンペーンなどなど、様々な対応に追われました。常にマスクと消毒が頭から離れることがなく、経済的にはもちろんのこと、心身ともに本当に疲弊する一年となりました。しかも未だにその先が見えていません。皆様と共に一日も早いコロナ退散を祈願したいと思います。

さてまちづくり協議会も、小

さな停滞はありましたが、スタッフの頑張りで交流館も駄菓子屋またあしたも日々の活動をつづけ、月例の運営委員会も「集まれる人だけでも集まって話をしよう」と継続してきました。

本紙をご一読いただければ皆様も、このご時世にしてははずぶんと多種多様な活動があったんだなど、驚かれるのではないのでしょうか。そしてその多くが、もちろん協議会の自主活動もありますが、お気付きのように、ほとんどが地域の皆さんの活動に参加させていただいたとか、全面的に助けていただいたとか、お任

せきりなのに活動はどんどん進んでいるとか、そうした話題が多いのです。そしてこれが、最近の私たち協議会の実態なのです。つまりまちづくり協議会は、品川宿への熱い思いを持った人たちが集う場を提供し、そうした人々を結びつけるつなぎ役を担っているに過ぎない、そう言っても過言ではありません。

月例の運営委員会で人と人が出会い、共鳴し合い、そして新しい活動が立ち上がっています。もしかしたらこれが、私たちがずっと目指してきたまちづくり活動の理想的な形なのではないの

か、そう思える場面がここ数年、非常に増えているのです。

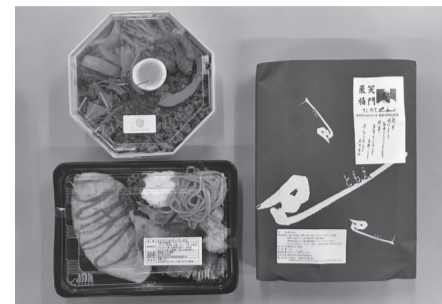
コロナ禍で社会活動が滞る中、協議会にとっては逆に、自分たちのまちづくりをじっくり見直す良い機会になったと思います。この間の経験を生かし、また地域の皆さんと一緒に、コロナ後のまちづくりのあり方を考え、活動に取り組んでいきたいと思ひます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会 会長 堀江 新三

◆子どもたちと外あそび

・飲食店・医療従事者応援プロジェクト



1月、2回目の緊急事態宣言の発出を受け、懸命に頑張っている医療従事者の方に感謝を伝えることを目的に区内にある東京品川病院へ区内飲食店のお弁当を届けました。

急な呼びかけに区内41店舗の賛同を受け、1月18日～2月6日までの18日間それぞれの店舗からお弁当を買い

受け病院へ届けました。お弁当には医療従事者の方への感謝のメッセージも添えられあたたかいエールが送られました。

東京品川病院に続いて、昭和大学病院へも10店舗に賛同頂き、2月8日～18日までの8日間、お弁当をお届けしました。

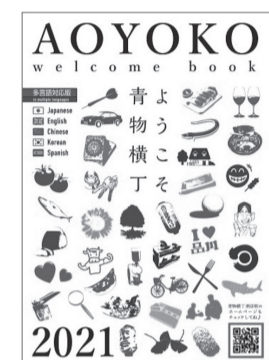
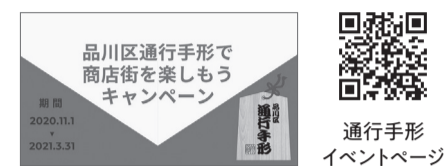
・品川区通行手形で商店街を楽しもうキャンペーン

品川区商店街連合会が、国産間伐材の有効活用と商店街への来街動機づくりを目的として昨年11月より展開しているキャンペーン。

【期間】2020年11月1日～2021年3月31日まで

【キャンペーン展開エリア】品川区内全域

協賛店にて手形を提示すると、割引サービスや粗品のプレゼントが受けられる、というものです。1月7日現在、約120店舗が参加しており、特典内容は区商連WEBSITEやFacebookにてご紹介しています。通行手形は、新東京木材商業協同組合品川支部の協力により、東京都青梅市・神奈川県山北町の国産間伐材を使用し、2万枚作製しました。手形の配布場所は、昨年行われた「しながわ水辺フェスタ」等のイベントや区内商店街事務所を中心に、品川宿交流館やしながわ観光協会にもご協力を頂いています。



本冊子を制作するにあたり、地元仲間の面々をはじめ、多くの方に多大なる御協力を賜りました。この場を借りて御礼致します。（青物横丁商店街）

◆青物横丁商店街が、3年ぶりに商店街ガイドブックを作成

2010年より数年間隔で発行してきました「AOYOKO welcome book」。今回で、創刊号から数えて5号目を発行する運びとなりました。昨今の感染症拡大により厳しい状況にある商店街会員を支援するため、また近隣にお住まいのお客様に少しでも寄添って、安心

をお届ける為に、2020年夏より制作してまいりました。

冊子は5000部発行し、商店街の各店舗、コンビニ、ホテル、品川宿交流館などで配布致します。

本冊子は商店街の「人」にフォーカスした内容となっています。各店舗の店

主や、医院の院長達が、どんな想いで頑張っているか。その想いを届けることで、近隣にお住まい、または働いているお客様、ホテルに滞在しているお客様が、ほんの少しでも『ほっとする』想いになり、来店頂くきっかけになれば光栄です。

大越さん教えて！品川宿の観光事情

【品川宿交流館ミニ情報】

① GO TOトラベルが始まった頃から徐々にではありますが、まち歩き来宿者が増加。最近ではクラブツーリズム等の団体も、ちらほら見られるように。また、コロナ禍を意識したまち歩きやイベントが行われるようになってきた。

② 品川宿交流館では、12月よりGO TOトラベル地域共通クーポン取扱店舗として協力。紙クーポンのみ利用可能、対象商品は、しながわ観光協会取扱用品(Tシャツしながわカルタ)のみ。

③品川区商店街連合会発行の「品川区通行手形」事業に協力をし、品川宿交流館でも配布。この通行手形は区内協力店にて掲示すると、何らかのサービスを受けられる特典があるため、大変好評で12月15日前に品川宿交流館配布分は一旦終了(※「品川区通行手形」は国内の間伐材を利用して製作されています)。

④ 最近、品川宿交流館には品川宿や周辺に拠点を設け、このまちに根を張って、体験型観光やまちの活性化にも協力をしていきたいという方々や、何か協力ができればとの企業が訪ねてこられるケースが増加。

【しながわ観光関連情報】

・**出役! アド街ツク天国 新馬場 放映**
令和2年10月24日(土)21:00～テレビ東京

「出役!アド街ツク天国 新馬場」が放映。翌日にはその効果もあり、多くの来宿者がありました。まちづくり協議会では、撮影前の下取材から撮影当日の協力など行う。

・北品川新宿観光案内所 オープン



令和2年11月1日(日)に、北品川一丁目の老舗和菓子屋だった辨軒軒 店舗跡を、(一社)しながわ観光協会が借用して北品川新宿観光案内所がオープン。この観光案内所は土日・祝日の10:00～15:00でガイドしながわの皆さんが常駐し、来宿者に対しまち歩きのアドバイスや、マップ等の配布を行う。建物の景観が素晴らしい、また好立地ということで、予想以上に多くの方々が利用しており、スタッフからは設置してあるマップの補充も忙しいという嬉しい悲鳴も。

★12/10現在、東海道と周辺観光案内施設(北から) ①北品川新宿観光案内所 ②問屋場 ③品川宿交流館 ④東大井区民集会所 ⑤東京モノレール大井競馬場前駅 観光情報センター
・**オンライン東京ツアー ハタチの龍馬く**

んと巡る! 東海道品川宿なるほどオンラインツアー 開催

12/4(金)、都内観光協会等と連携し、歴史や文化、自然などをテーマに都内おすすめのスポットをWeb上で案内するオンラインツアー「ハタチの龍馬くんと巡る! 東海道品川宿なるほどオンラインツアー」を品川宿交流館を活用して開催(東京都及び(公財)東京観光財団が都内各地の魅力を発信し、地域の観光振興につなげる取り組み)。参加者に前日までにお送りした、しながわ土産を召し上がりながら楽しむというオンラインツアー。また当日は歴史的な質問にも答えられるようガイドしながわの山田氏も同席、ハタチの龍馬くんも登場して、満員(定員20名)の方々に参加。

【2021年のイベント予定等】

・**オンラインまち歩き宝探し シナモロールと裏メニューのうわさ**
2021年1月15日(金)～3月14日(日)の間、オンラインで品川区内を巡り、宝探しを楽しむという「オンラインまち歩き宝探し シナモロールと裏メニューのうわさ」が開催。しながわ観光大使でもあるシナモロールが住む「カフェ・シナモン」の裏メニュー「世界一おいしいケーキ」を作るために、品川区内に散らばった秘密の食材を集めて持っていけばこっそり作ってくれるというストーリー。もちろん品川宿にも

謎が隠されています。

・東海道品川宿スタンプラリー 京急沿線を通行手形をもってお得に散策!

令和3年2月6日(土)～3月28日(日)京浜急行電鉄(株)に品川区商店街連合会、しながわ観光協会、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会が協力して東海道品川宿スタンプラリーが開催予定。品川区通行手形 京急コラボバージョンを入手して京急関連施設にて手形にスタンプを3つ押し、景品交換所(SHINAGAWA1930)おとどけいきゅう・品川宿交流館)で200円以上の買い物をするオリジナルグッズをプレゼントというもの。またフリーレットを作成し沿線の商店街が紹介されます。皆さま是非ご参加ください。

・**シナモロール 品川PR動画配信**
しながわ観光大使のシナモロールが品川の魅力をPRする動画が、品川宿交流館や品川宿内のお店も登場(予定)して、わくわくしながわタウンホームページにて配信。配信予定日は2021年3月6日(土)～。おたのしみ!
このまちでこんなことがしたい、との思いを持ってご来宿いただき、近い将来のまちの宝となりえる皆さまを、まちづくり協議会は歓迎いたします。一緒に品川宿や周辺を盛り上げていきましょう!
(大越章光)

コーちゃんが残してくれた写真

交流館では現在、品川宿観光PR事業の一環で、写真展「海も川もまだ身近だった、あの頃 昭和30～40年代を中心に」を開催中(4月30日まで)。

北品川宿には、品川神社の氏子を中心とした皆さんが立派な写真集を発行しているが、南品川宿の写真収集は遅々として進まず、長年の懸案事項となっていた。

今回、南品川、東品川全町会へもお声がけし、また学校などにも協

力をお願いして収集作業を進めてきた。この写真展をご覧いただく皆様の中に「こんな写真なら家にもあるよ」とお気付きの方があれば、ぜひ交流館の方へご連絡をいただきたい。

なお、2階展示室の「懐かしの南馬場商店街」の写真は、鈴木光二郎さんの父上、鈴木一太郎さんが残してくださっていたアルバムで、光二郎さんの弟さんから南馬場の藤森さんを経由して入手したものだ。鈴木光二

郎さんと書く「どなた?」と思われそうだが「コーちゃん」と書けばどなたも合点。まちづくり協議会の発足時から30年間に渡って副会長を務めてくださった、あの「バイク屋のコーちゃん」。南と東を中心に写真展をやろうと言いつつ始めたまさにその時に、こうした貴重なアルバムが現れ



ようとは、何か目に見えない不思議な力を感じるの、担当者だけだろうか。(佐山吉孝)

特別事業「東海道品川宿」の観光PR事業

～街道歩きのレジェンド・田中義巳のとおき「品川宿まち歩き」(2020年度 全6回開催)～

このシリーズでは、品川宿とその周辺の歴史まち歩きを6地域に分けて行っています。品川宿の歴史は、江戸以前、江戸時代初期、中期、後期、中でも幕末維新で大きく変化しています。さらに明治以降の近代化、海岸部の埋め立て、都市化によって、見違えるような変化と発展をとげています。一方で、旧東海道の道筋や横丁、路地、寺社に残る史跡、祭など歴史の重なりレトロ感のある町並みが残っています。

現在、目に見えるものから分かる品川宿の歴史はそれほど多くありません。品川宿の歴史をより深く知るためには、かすかに残る痕跡を絵図や

浮世絵、写真、古文書、古地図、歴史年表を頼りに補足して理解することが必要です。重ねての作成も必要です。6地域に分割することに、より詳細な地域の歴史の掘り起こしと資料の提供に留意して案内しています。コロナ禍のもと「蜜」になることを避けて、月齢会として実施していました。「非常事態宣言」下で今後の実施日程については未定ですが、以下の3回の実施を準備中。

第4回
「目黒川流域の歴史の変遷をめぐる」<コース>新品川橋～荏原神社～目黒川旧河道～清光院～日本ペイント～居木橋～白煉瓦架道橋～春雨寺～東海

寺大山墓地～リニア変電所(品川硝子製造所跡)～新馬場駅:解散
第5回
「品川橋から南品川宿をめぐる」<コース>品川橋～旧海岸線～南馬場～品川用水跡～三岳稲荷～海雲寺:解散
第6回
「鮫洲から鈴ヶ森をめぐる」<コース>青物横丁～泊船寺～山内豊信墓～龍馬の足跡～鈴ヶ森～大森海岸駅:解散
以下、2020年実施済み
第1回:2020年10月31日(土)



第2回:2020年11月28日(土)
「徒歩新宿から御殿山をめぐる」<コース>清水横丁～御殿山～小関～開東閣～北品川駅:解散
第3回:2020年12月26日(土)
「北品川本宿から法禅寺、横町、品川神社、東海寺をめぐる」<コース>聖蹟公園～横丁～法禅寺～小泉長屋～品川神社～緒明横町～東海寺～北馬場(街道文庫 田中義巳)

混乱の2020年

～周囲の変化に合わせ歩んだ活動の一年を振り返ってみました～

運営委員会と品川宿交流館

昨年より新型コロナウイルス流行に伴い、毎月の運営委員会をオンライン開催を試みました。残念ながら二度目の緊急事態宣言発令に伴い、2021年1月の運営委員会は中止となりました。また、品川宿交流館営業につきましては、品川区と都度協議を行い、さまざまな対策、対応を取ってまいりました。2020年の春頃より、コロナ禍で陽性者が増加傾向している状況でありながら、徐々にまち歩きの方々も増え始めたことを受け、手指消毒液を設置した上で、4/2(木)・3日(金)を10:00～15:00の時短で開館。4/4(土)～12(日)をコロナ対策準備のため一旦閉館(※4/7(火)～5/25(火)緊急事態宣言期間)。4/13(月)の通常休館日はさみ、4/14(火)～5/31(日)の閑休館。6/1(月)通常休館日の後コロナ対策を強化した上で開館。

【対策内容】

- ①開館時間を10:00～16:00とする
- ②マスク着用した上での入館
- ③入口に手指消毒液設置

- ④37度以上発熱がある方の入館の断り
- ⑤定期的な換気・消毒
- ⑥ソーシャルディスタンスを意識して席数を減らす
- ⑦館内トイレの使用禁止
- ⑧館内での飲食の禁止
- ⑨館内のごみ箱の撤去
- ⑩長時間の滞在をご遠慮いただく

2021年1/7(木)より二度目の緊急事態宣言発令。1/13(水)より緊急事態宣言解除までの期間、1F駄菓子屋またあした 休業。品川宿交流館は通常通り開館、写真展「海も川もまだ身近だった、あの頃 昭和30～40年代を中心に」は継続開催。

※昨年の緊急事態宣言後の対策に加え、交流館入口に非接触型体温計設置



まち並み整備プロジェクト

景観アドバイザー業務実績

2020年度の景観アドバイザー業務について、品川区の委託業務として毎月の火曜日と木曜日に品川宿の景観アドバイザー業務をおこなっています。本年度は4月からこれまで12月までに約40件の相談がありました。

また、景観整備の補助金を使って数件の整備事業が行われております。事例としては、品川寺の塙の撤去による外構整備やシャンティカレーの店舗外装塗装などが行われております。シャンティカレーの外装デザインについては、デザイナーと協議させていた



だき、品川宿のかつての海辺のオマージュと会社イメージを重ね合わせたデザインとなっております。また、建て替え時に景観補助を行った建物には馬肉屋さんが入居し、協議により街並に合わせた店舗外装を行っていました。(嶋村 泰輝)

「まちづくりに灯りを」灯籠プロジェクト

2020年10月、コロナ禍の影響であらゆる祭りやイベントが中止となった。そんな中、何とか実施できないかというみんなの思いが結集した。そして宿場通り南会の会長や、なぎさの会、地元住民、学生、企業、そして手作りの灯籠を提供してくれた城南第二小学校の生徒さんや学校のご協力をいただいて、ついに開催することができた。

高さ20cm程度の段ボールでできた小さな灯籠だけど、そこには多くの人々の思いが込められている。これがいわゆる「絆」をうみ、まちづくりに貢献しているのだと思う。こうして今「みこしだこ」の記事を書いている、自然と涙がこみあげてくる。個人としてもそれだけの思いがある。

11月21日～23日、しながわ観光協会との協働で大井競馬場様のご協力

交流事業

当たり前だが、交流事業は異なる地域や文化、生活、職業の方々が出会ったり、連絡しあったりすることで成り立つ。人と人の接触そのものが制限された昨年はほとんどの活動が中止となった。意見交換が目的ではない東海道検定だけは例年通り3月に実施できた。

しながわ宿場まつりや他宿の宿場まつり、東海道シンポジウム等々、約束したはずの再会を果たすことが出来なかった。

そんな中、騒動が少し納まった10月22日、東京・神奈川ブロック会議がかわさき宿交流館で開催され、行政の方3名を含む7名で参加できたことが記憶に残る。まちづくり協議会が30余年続けている東海道57宿との付き合いのなかで、東京と神奈川に行ってきたブロック会議は、一昨用品川で開催してから1年経ってしまった。みんな久しぶりだから大きな会議室には50を超える笑顔が溢れた。

NPO東海道宿駅会議から、今年のシンポジウムは昨年延期となった掛川宿・日坂宿で10月16日に行うこと、来年は亀山宿、そして2023年は宿場制定400年を迎える川崎宿を予定していることが報告された。その後は各宿からの近況報告、やっと会えたから皆さんよく喋った。

夜のまちを少し歩いてみた。川崎の景観整備は凄い速さで進んでいる。まちづくりから生まれた綺麗なホテルがあった。HOTEL & KITCHEN 縁道 En Michi 1階の縁道食堂は家族連れで賑わっていた。

(長谷山 純)



品川寺 新たなこころみ

品川寺は平安時代の初め(810年頃)開山された品川区で一番古いお寺と言われてます。旧東海道から見える大きなお地藏様と、パリ万博に出展して行方不明になり、スイス・ジュネーブで発見され後に返還された梵鐘がお寺のシンボルとなっています。この事がきっかけとなり、後にジュネーブ市と品川区は姉妹都市となりました。

江戸六地藏・第一番のお地藏様は、旧東海道を出発する旅人の安全を祈願し、街道を見守るよう建立されました。品川区景観計画旧東海道品川宿地区条例に沿うよう、この度思い切った塙を壊し、昔と同様道を通る人々からお地藏様や境内がよく見えるように改修しました。

また、宗教施設としてだけでなく、街の皆様の憩いの場や心の拠り所であるのが本来のお寺の役割であるところから、カフェをオープンする委託を新たにいたしました。コロナ禍でオープン時期が延びていますが、準備は整っておりますので、時期をみて皆様にご案内させていただきますと思っています。

今後、このコロナ禍の状況が収まった後、現行の子供向けロボット教室に加え、街に活気をあたえるような寺子屋教室や境内を利用したの企画などの開催を増やしていく予定です。(品川寺)



のもとに灯籠を展示。実はこの前の展示で、段ボールでできた灯籠の脚が雨を吸い込んでダメージを受けていた。そのために灯籠をつけるにも、灯籠をひとつひとつ直しながらだったので時間がかかった。直しきれなかった灯籠を後日、大人3人で黙々と修繕作業。「子供たちから借りた灯籠、ちゃんとした形に戻して返さなきゃ。」と言いな



が3時間、頑張りました。ご苦労様でした。(東京サラヤ 小野 文義)

東海道品川宿スポーツタウンプロジェクト ～「コロナ2020年活動の中で見えたコト」～



人生の中で1番スポーツについて考え、向き合ったコロナ禍。スポーツの目的は、個人によって様々です。「楽しむため、体を鍛えるため、仲間をつくるため、爽快感や達成感、喜びを感じるため」など多くのことがあり

ます。私は、幼少期から、サッカー、野球、柔道、水泳などスポーツをやってきて、今はスポーツクラブの運営の仕事をしています。私にとってスポーツがなくてはならないものであると改めて感じた1年でした。コロナの影響

水辺プロジェクト

まちの水辺担当として、品川区観光振興協議会の「水辺活用部会」、河川下水道課の「黒川航行マナー向上委員会」、品川浦・天王洲ルネッサンス協議会に参加しています。2020年はコロナ禍にあり、残念ながら実施には至りませんでした。例年は、東品川海上公園日黒川浮桟橋に、カヌーやEポートなどの非動力船や周遊船などを用いて水辺利活用の啓発活動を勝島運河倶楽部やなぎさの会と連携し実施しています。また、定期的に、同浮桟橋の管理、保全も担っています。

時期は未定ですが、防災や非動力



船(カヌー、カヤック等)の利用を主とする東品川海上公園船着場の新設が計画されており、設計設置に係る要望や意見、調整などの打ち合わせに参加しています。

身近にある水辺が暮らしに溶け込み、みなさんに親しまれ地域に賑わいをもたらすことを願い今後も努めてまいります。ご理解ご協力の程お願い致します。(大竹幸義)

しながわっこプロジェクト

これまで2つのまち歩きを例年実施してまいりましたが、2020年はコロナの影響により「城南第二・台場小学校3年市民科 まち歩き」が中止となり、11月7日「城南小学校6年市民科 東

海道歴史探訪(歴史まち歩き)」のみの実施となりました。また、新たな試みとして、9月30日には東海中学校運動会、10月30日には御殿山小学校運動会を「NPO法人なぎさの会」と連

特別事業 しながわホッケーまちづくりプロジェクト

今年度の特別事業として、品川でつながるホッケー×まちづくりをテーマに、東京2020大会のレガシーとなる取り組みを行なっています。(共催:品川区オリンピック・パラリンピック準備課 特別協力:(公社)日本ホッケー協会ほか)

2020年12月5日～16日、オリンピックのホッケー競技が開催される大井ホッケー競技場にて、中学生世代の日本代表のオールスター戦が行われ

ました。試合に合わせて、応援にかけつけた保護者の方々に対して、しながわ観光の情報発信や、保護者の皆様を屋形船でご案内するツアーを実施しました。地域資源を活用したスポーツツーリズムとして、大会後もレガシーとして残る取り組みに発展させていきたいと考えています。子どもたちは、コロナ禍によって、さまざまな我慢の中で過ごしています。これまで当たり前であったスポーツを楽しむ

で、スポーツをすることができない日々が続き、活動を行う場合は、感染症対策を万全に行うようになりました。試合数は、例年の半分になってしまいましたが、連盟の方々が協力して、リーグ戦は行うことができました。新しい取組として、オンラインで会員さんと繋がり、ミーティングや家で

できるトレーニングなど、新しいことに挑戦することができた。内容などはまだまだ改善が必要で、受講者が楽しめるように勉強中です。よいプログラムが作れば子どもたちをもっと楽しんでもらえると思うので、頑張ります。嬉しかったことは、昨年より会員さんが増えました。お友だちが、お友だちを呼んで来てくれて、幼児クラス

だけで、20名以上の子どもたちが入会してくれました。クラブの活動を楽しんでくれる子が多くなりとても嬉しいです。また、親子サッカーにも多くの人たちが参加してくれて、親子でスポーツをする喜びを感じてもらうことができました。

スポーツをするということが、当たり前だと思っていましたが、当たり前ではなく、様々な人の協力があってできるのだと考えることができました。スポーツをする時は感謝の気持ちを持ってしたいと思います。まだまだ予断を許さない状況ですが、みんなで力を合わせて今の状況を乗り越えていきましょう。

(東海道品川宿FC 松村圭祐)

水辺の活動と「なぎさの会」

NPO法人なぎさの会は、行政や自治体などの境を越えメンバーが集い自主的活動を中心とするコミュニティです。主に「しながわ運河まつり」実行委員会の運営、「しながわ水辺の観光フェスタ」実行委員会に参加し、企画、運営を担い活動しており、また、水辺に関する各部会や天王洲キャナルサイド活性化協会等と連携し協力しています。2020年は、新型コロナウイルス感染症の予防および感染拡大防止のため、2008年より東品川海上公園において開催してきました「しながわ運河まつり」は中止しました。

しながわ水辺の観光フェスタは、感染拡大防止対策を徹底し、企画を縮小変更して、10月10日、11日に各会場(五反田、八潮、勝島、品川、天王洲)で開催されました。企画内容は周遊船、非動力船、スポーツ、福祉、ライブ配信&プレゼント企画です。しかしながら、一日目の10日は台風の影響により周遊船、非動力船、スポーツ企画は当日判断で中止。二日目は台風一過の晴天には至りませんでした。予定通り開催され無事に終わることができました。

2021年は新様式を上手く取り入れながら、新しいことにも挑戦していきたいと考えています(しながわ運河まつり2021は5月2日～4日を予定しています)。今年もご理解ご協力の程よろしくお願致します。(NPO法人なぎさの会 ちゅ〜やん)



携協力しながらYouTube中継を行いました。まだ先の見えない状況ではありますが、出来る範囲で継続していきたいと思っております。ご協力宜しくお願いいたします。(井上明裕)



日常が、どれだけ大切な時間であったかを実感する活動となりました。コロナ対策を徹底しながら、これからも、

スポーツを通じて、地域の子どもたちを応援していきます!(竹中茂雄)

◆子どもたちと外あそび

「北浜こども冒険ひろば」

昨年、緊急事態宣言が出たとき、北浜こども冒険ひろばも閉園することになりました。そして6月22日やっと再開することが決まりました。外であそぶことが減っている今、新型コロナウイルスのパンデミックで子どもたちは、さらに外であそばなくなってしまっているのではないかと…私たちは少々暗い気持ちになっていました。再開初日は雨の月曜日。私たちが立てた「子どもたちが遊ぶ場所と分けるために迂回路を通ってください」という案内看板を読んでいるご夫婦がいました。今まで公園を通り抜けていたまちの人には、とても大変なご苦勞をかけてしまっています。

「すみません。やっと縮小して開園出来たのですが、まちの方には本当にご苦勞をおかしてしまい…」と私は頭を下げました。すると「大丈夫ですよ。本当に感謝してるんですよ。孫もお世話になっているんですよ」とニコニコ笑って通り過ぎて行きました。たかさんの方が、看板を読むために入口に立ち止まります。その度に、お詫びのために話しかけます。初めてお会いする方だと思ひ話しかけると、私たちの日々の姿を見ていた方

がほとんど。そして、優しい言葉を返してくれるのです。つくづくこの北浜がまちの人達に応援されていることを実感させられました。

水曜日。やっとお日様が見えてきました。子どもたちが一人また一人とやってきます。今まで出来なかった遊びをやらうとブランコを作り出す中学生。泥団子を作ろうと、ふるいを持ってきた1年生。そのふるいで見つけた、光り輝く黒い石。やがて中学生も一緒に、大きな穴が掘られ…その姿が私たちに思い出させてくれました。「子どもにとって遊びは主食」であることを。

そして1月7日。再び緊急事態宣言が出されました。しかしこども冒険ひろばは屋外であるということで、今回は閉園されていません。迂回路設置やコロナ対策を取りながらの縮小開園ですが、子どもたちの笑顔がはじけています。まちのおじちゃんやおばちゃんも、ベンチに座って子どもたちを見ています。それはここには幸せがあるからだと思ひます。※現在冒険ひろばは新型コロナウイルス感染拡大防止のため三密を避け縮小開園しています。利用の際は「おまもりカード」を書いていただいています。

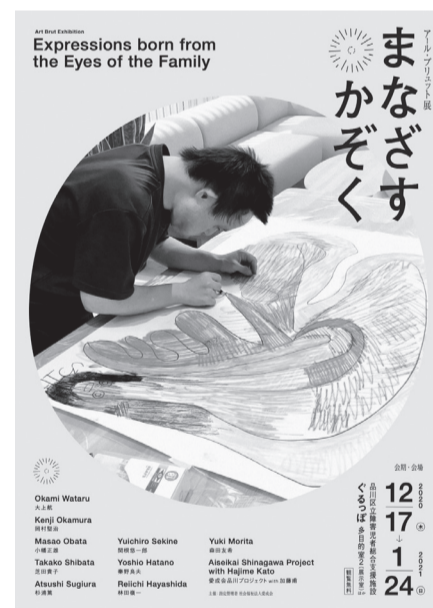


「チャンバラができる能力」

鬼滅の刃の影響で、再びチャンバラブームが訪れています。「水の呼吸」と叫びながら、剣を構える。そして剣を合わせ、また後ろに飛び離れる。大人が見るとハラハラすることも多いのではないのでしょうか。

実は、このチャンバラ遊びが楽しくできるには、ある能力が必要なのです。それは「ごっこの世界(ファンタジー)とほんとの世界(現実)を自由に行き来できる」能力です。ごっこの世界に入れなければ、遊びは面白くありません。イメージを共有することで遊びはぐんぐん豊かになっていきます。しかし、そのごっこの世界から出

ず。遊びは終わってしまいます。だから、剣で相手を切るときには、現実の世界に戻って、力を抜いて切ることが必要なのです。それは敵にも心を寄せることなしには、楽しい時間はたもつことができないということです。「ムキになるなよ!」「なんで本気になるんだよ!」「つまらなくなるだろ!」そう子どもたちは叫びながら、友達に心を寄せる優しさを育てあっているのです。(こども冒険ひろば・プレイワーカー宮里和則)



イベントを、東京アール・ブリュットサポートセンターRightsが主催します。こちらのイベントの最新情報やライツの活動については、<https://www.facebook.com/rights.aisei/>にてご覧いただけます。地域の方々に関わることで広がる障害者による芸術活動の可能性に、ぜひ触れてください。

(アサダワタル)

◆まちを舞台に、2つのイベントを開催!

品川区立障害児者総合支援施設ぐるっぽで開催中の展覧会では、障害の有無を超えて、一人ひとりの独自の発想・方法で、「こんな世界の捉え方があるんだ!」ということを気づかせてくれる表現群を紹介しています。テーマは「家族」。表現を通じて家族がまなざしあって支え合う。そしてその輪はきっと「地域」にまで広がって

ゆくはず。いつもお世話になっている品川宿界隈の方々とともに、このコロナ禍のなかで安全・安心に運営に努めて参ります。どうぞお越しください。(最新情報は<https://www.facebook.com/aiseishinagawa/>)

また、1月14日(木)から4日間、同じく品川宿を舞台にした、障害のある方々の表現に触れる展示やトーク

◆写真シリーズ「まちなか・なってみた」～まちコラボ



南品川3丁目の品川区立障害児者総合支援施設ぐるっぽでは、ここに通所される18歳以上の利用者の方々と日々、様々なアート活動に取り組んでいます。世の中に「ふつう」と言われる価値観があるなら、利用者の皆さんはそれぞれに独特な人との関わり

方、思いの表現の仕方を持っています。言葉を主なコミュニケーションの手段としない人にとって、時に音楽やダンス、写真などは他者とつながる素敵な手立てとなります。

ここでの活動で、写真家の加藤甫さんと品川宿界隈で働く方々にご協力いただき、利用者さんが撮影モデルとなって、この地域で様々なお店の人になりきってみる写真シリーズ「まちなか・なってみた」を継続しています。まち協の皆さんに多大なるご協力をいただき、実現するちょっとヘンテコな写真群は、利用者さんが地域と共に

あることを確認するとともに、まちに「ユルさ」を提供することにならないかと、おこがましいながら感じているのです。たださえコロナ禍でギスギスしやすい日常で、なんかよくわからないけどちょっとクスッと笑えるとか、ちょっと気が緩むとか、実は結構大事なんじゃないかと。そう、利用者さんにはそのあたり、達人です。まちの方々には深くお礼を申し上げつつ、引き続き一緒に活動してまいります。本イベントの開催にあたりご協力いただいた皆様に、深く御礼申し上げます。(社会福祉法人 愛成会スタッフ/撮影:加藤甫)

そして、「束の間」、「旧栴翁軒」、

◆第4回『ドキュ・メント』

社会問題の当事者が場の中心となり、ドキュメンタリーを通して他者の人生を経験する映像祭「ドキュ・メント」。

第4回目の2020年はコロナ禍の只中で生まれた声を映像作品と共にオンライン配信しました。緊急事態宣言から24時間SOSに答え続けている支援者は、この社会の行方をどう

◆品川宿いどばた

2020年3月から5月末はお店を開め、親子ひろばはオンライン対応するなどして継続しました。6月から通常営業し、待ってました!と言わんばかりに、お店は毎日親子の出入りがあります。やっぱりこの状況下の中でもリアルに人と人が繋がることは常に求められ、リアルの価値は高まっています。

現在いどばたでは、「発達障害や病気のある子をもつ親の会」「多胎児の会」「ママシェア会」「ソノオイルパン教室」「親子茶道教室」「アート教室」「オステオパシー整体」「みんなで作り置き調理」。そしてオープン当初から変わらず、「親子ひろば」「いどばた食堂テイクアウト」、と毎日多様なコミュニティをメンバーと一緒に運

考えるのか? コロナ感染がまたも拡大する中、現場の看護師たちはこの事態とどう向き合っているのか?感染に怯えながら風俗で働く人たち、休業補償を求めて闘う若者、仮放免のクルド人、“夜の街”歌舞伎町のラッパー、報道の現場で闘うジャーナリストなど、ドキュメンタリーメディア「Documeme」の出演者を招き、共

営しています。いどばた食堂もテイクアウトに切り替えたことにより、近所のお年寄りの方々が常連になりました。0歳~80歳までご来店くださっています。※コロナ対策として、入り口でのアルコール消毒、食堂はテイクアウトのみで対応、店内での飲食はなし



◆ゲストハウス品川宿

明けましておめでとうございます。ゲストハウス品川宿 渡邊です。新型コロナウイルスの影響で外国人や人の移動の制限され、観光と宿泊は厳しさを増している現状です。まちづくり協議会との協力連携で、3つの取り組みを実施しました。

一つ目は近隣飲食店や屋形船などと連携したGOTO宿泊プランの販売です。宿泊とセットで販売することで連

携先でも割引を受けられるようになり、利用者からは大変ご好評を頂きました。(現在停止中、GOTO再開時に再開予定)

二つ目としては、日本ホッケー協会と連携した代表クラスの誘致です。大井ホッケースタジアムで行われる全国レベルの試合や合宿などの際、選手や家族の滞在を品川宿エリアで受け入れる体制を整え、実際にU15選

◆天王洲より「コロナ2020年活動の中で見えたコト」

2020年は新型コロナウイルス蔓延の影響により、「新しい生活様式」が提言され、人との関わり方が見直されていく中で、イベント自体も新しいスタイルを模索していく必要に迫られました。

有名アーティスト等がWEB配信イベントを活用し始めたとき、地域イベントにおいてこの方法がうまくいかか検討しました。WEB配信はどこからでも参加できますが、地域と縁も所縁もない人が参加する可能性はほぼなく、

これまでの参加者も、配信したからといって参加する動機もメリットもありません。

目先を変えて、出演者の家族・友人・知人をターゲットにすることを考えました。地域の文化サークルの発表の場を提供すれば、関係する多くの人に見てもらえ、今まで地域を訪れたことがない人に来街の動機を拓けることに繋がります。

天王洲チャンネルフェス夏において「チャンネルチャンネル」と称した地域

に映像を見て、活動の現在を聞き、少し未来まで共に歩いていけるような語りの時間を作りました。

私たちは、映像の制作やドキュメントのような場づくりを通して、他者の声を聴き、受容し、響きあう社会を追求していきます。品川宿のみなさま、いつもサポート頂き



本当にありがとうございます。来年またお会いしましょう。感謝をこめて。(内山直樹)

◆品川区エアロビック連盟

「品川区エアロビック連盟」は、品川全域区民の皆様にご提案をさせていただく団体です。

具体的には、①子どもから高齢者の皆様まで目的に応じたエアロビックの普及 ②競技エアロビックの普及・競技力向上。そして2021年は、コロナ禍である今こそ、エアロビックで品川を元気に!を合言葉に活動して参ります。

2020年11月には、品川生まれ品川育ち城南小学校卒業生の 上田真穂(2020年7月 品川区エアロビック連盟へエアロビックアンバサダーに就任)が、全日本エアロビック選手権で見事、女子シングル部門・トリオ部



門・グループ部門で優勝を果たしました。青物横丁商店街の入り口に横断幕を掲げていただき、地元の皆様と一緒に喜びを分かち合えたことを深く感謝申し上げます。益々活気あふれる活動にしていけると確信しております。スポーツで品川に活力を!エアロビックで品川を元気に!どうぞ宜しくお願い申し上げます。(上田泰子)



まず受け入れを続け、来たるオリンピックに訪れたい地域「品川宿」を目指してスタッフ一同笑顔で営業を続けたいと思います。(宿場ジャパン 渡邊崇志)

の文化活動を配信するプログラムを実施したところ、遠方も含めて多くの視聴があり、予想以上の反響がありました。このことから出演者、参加者、地域が直接的でなく間接的だけでも繋がること、新たな地域の魅力を創出できると気づかされました。2021年も様々なことにチャレンジしていきますので、



ご協力の程よろしく申し上げます。(天王洲・チャンネルサイド活性化協会 和田本 聡)